

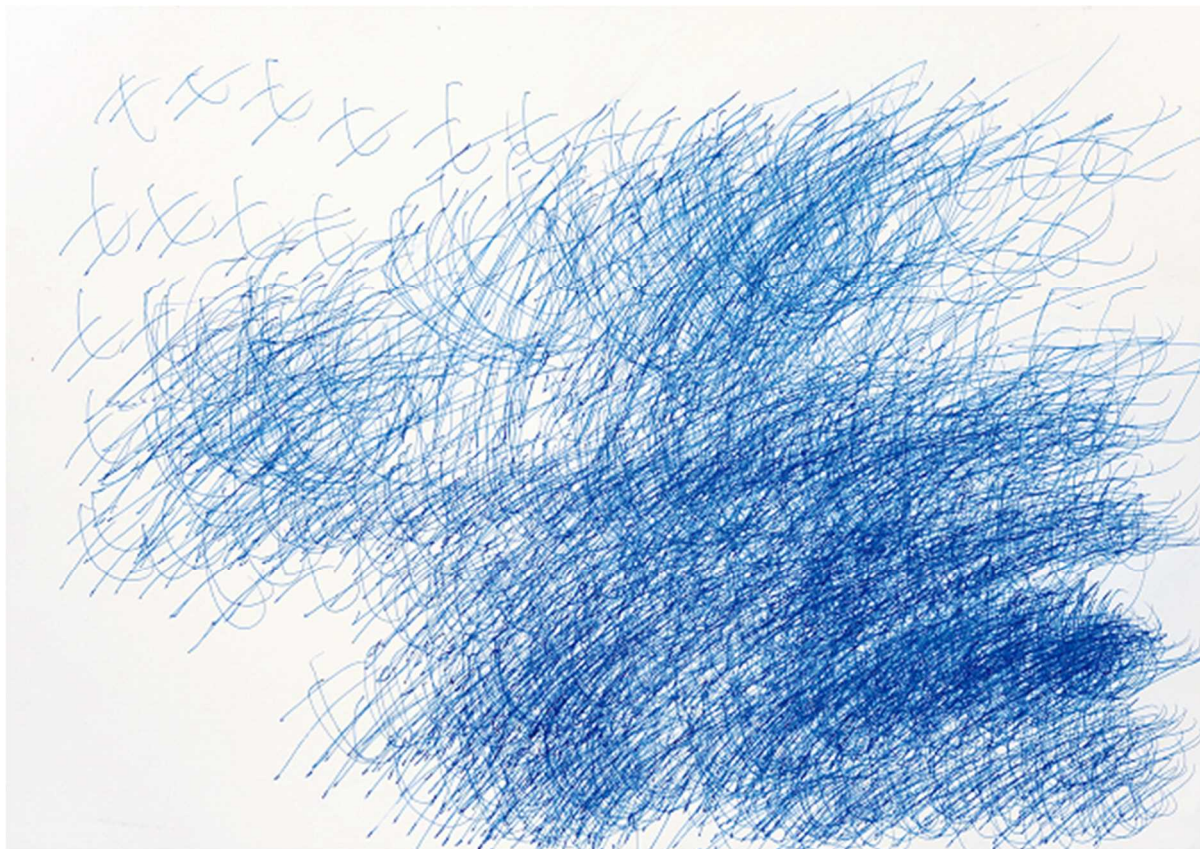
※出展者の吉川秀昭様のお名前に誤りがございました。吉川様、関係者の皆様に心からお詫び申し上げますとともに、正誤をお知らせいたします。
誤) 吉川秀明
正) 吉川秀昭

提供年月日：令和6年（2024年）3月19日
所属名：滋賀県立美術館
担当者名：小松（広報担当）、山田創（学芸担当）
連絡先：077-543-2113
E-mail：museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館開館40周年記念

つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人 —たとえば、「も」を何百回と書く。

2024年4月20日（土）～6月23日（日）



齋藤 裕一《ドラえもん》2003～2006年 滋賀県立美術館蔵
撮影：大西暢夫 写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

【見どころ】

- *国内外で好評を博した「アール・ブリュット・ジャポネ」展の出品作であり、日本のアール・ブリュット界のレジェンドともいえるつくり手の作品を一堂に展観
- *2023年に日本財団から寄贈（寄託を含む）を受けたアール・ブリュット・コレクションを初お披露目（会期中展示替えなし）
- *会期中に、出展者である富塚純光^{とみづか じゅんこう}による公開制作を開催
- *本展に合わせて制作した、出展者たちの制作風景を捉えた映像を公開
- *出展者の表現を追体験できるようなワークショップコーナーを常設

1. 本展について

日本語では、「生（なま）の芸術」と訳されてきたアール・ブリュット。1940年代、フランスの画家、ジャン・デュビュッフェが、精神障害者や独学のつくり手などの作品に心を打たれ、提唱した美術の概念です。本展では、2023年に日本財団より受贈した、45人の日本のアール・ブリュットのつくり手による作品約450点を展示します。

たとえば、「も」を何百回と書いたり、他人には読めない文字で毎日同じ内容の日記を記したり、寝る間を惜しんで記号を描き続けたり一冴えたひらめきや、ひたむきなこだわりを形にするため、出どころの謎めいた発想と熱量をもって挑む、そんな冒険的な創作との出会いをお楽しみください。

2. 開催概要

展覧会名（正式）：滋賀県立美術館 開館40周年記念

「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人 —たとえば、「も」を何百回と書く。」

展覧会名（略記）：「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人」

展覧会名（英語正式）：Shiga Museum of Art 40th Anniversary

「Creative Adventures by 45 Japanese Art Brut Creators

: Endless iterations of the single glyph “も” and more」

展覧会名（英語略記）：「Creative Adventures by 45 Japanese Art Brut Creators」

会 期：2024年4月20日（土）～6月23日（日）

休 館 日：毎週月曜日（ただし休日の場合には開館し、翌日火曜日休館）

開場時間：9:30～17:00（入場は16:30まで）

会 場：滋賀県立美術館 展示室3

観 覧 料：一般950円（800円）

高校生・大学生600円（500円）

小学生・中学生400円（300円）

※お支払いは現金のみ

※（ ）内は20名以上の団体料金

※企画展のチケットで展示室1・2で同時開催している常設展も無料で観覧可

※未就学児は無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料

主 催：滋賀県立美術館、京都新聞

特別協力：一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

出 展 者：石野敬祐、伊藤峰尾、伊藤喜彦、岩崎司、上里浩也、上田志保、内山智昭、大梶公子、
（五十音順）大久保寿、小幡正雄、鎌江一美、狩俣明宏、橘高博枝、木伏大助、木村茜、木本博俊、
齋藤裕一、佐々木早苗、澤田真一、滋賀俊彦、芝田貴子、舛次崇、高橋和彦、高橋重美、
土屋正彦、富塚純光、西本政敏、畑名祐孝、畑中亜未、秦野良夫、平岡伸太、平瀬敏裕、
平野信治、藤野公一、戸來貴規、松田僚馬、松本寛庸、水谷伸郎、宮間英次郎、
村田清司、八重樫道代、八島孝一、山崎健一、吉川秀昭、吉澤健

3. 45人の作品が滋賀県立美術館に收藏されるまで

2010年、フランス・パリのアル・サン・ピエール美術館で「アール・ブリュット・ジャポネ（邦訳：日本のアール・ブリュット）」展が開催されました。この展覧会では、滋賀を含む全国各地でその才能を見出された障害のある人や独学のつくり手たちの作品が日本のアール・ブリュットとして紹介され、話題を呼びました。さらに、会期後日本に戻ってきた作品群による巡回展が国内各地で開催され、逆輸入的に日本でもアール・ブリュットが注目を集めるきっかけとなりました。

本展に出品される45人の作品は、「アール・ブリュット・ジャポネ」展に出展された後、日本財団により所蔵されていたもので、2023年、さらなる活用を目的に、アール・ブリュットを収集方針に掲げる国内唯一の公立美術館である当館に寄贈（寄託を含む）いただきました。これにより、当館は世界でも有数のアール・ブリュットのコレクション（731件）を有する美術館となりました。

4. 構成

1 色と形をおいかけて

色と形、それはなにかをつくる時、大切な要素です。本展の作品のなかにも、色と形をめぐる様々な試みを見ることができます。その中には、つくり手のひらめきや、気の迷い、動かす手の喜びなどが透けて見えてくることでしょう。

つくり手：松本 寛庸、村田 清司、伊藤 喜彦、畑中 亜未、
舛次 崇、藤野 公一、木村 茜、鎌江 一美、
大梶 公子、平瀬 敏裕、八重樫 道代

※つくり手の順番は展示順に準じます（以下同様）。



舛次崇《パンチとドライバーとノコギリとパンチ》

2006年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫

写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

2 繰り返しのたび

自分の名前、お母さんの肖像、同じ内容の日記などなど……ここでは、繰り返しを中心とした作品を紹介します。一つのことにとこだわる執念にも、やすらぎを求める行動のようでもある「繰り返し」とは、どのような意味を持つ営みなのでしょう。

つくり手：伊藤 峰尾、吉川秀昭、芝田 貴子、滋賀 俊彦、
橘高 博枝、戸來 貴規、齋藤 裕一、上田 志保、
佐々木 早苗



佐々木早苗《無題》2007～2008年

滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫

写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

3 冒険にでる理由

ここでは、つくり手たち自身を捉えた映像をご覧ください。映像を通し、つくり手たちの、生きることとつくることの間がたい結びつきについて、その一端を、感じ取っていただけることでしょう。

つくり手：木村茜、伊藤峰尾、佐々木早苗、石野 敬祐

4 社会の密林へ

路上に落ちていたモノを拾い集めてつくったオブジェや、独特に着飾った派手な服装で町中に行くパフォーマンス、また自分の知る人々の顔、関心のある乗り物の精巧な再現など、ここでは、社会との交わりを感じさせる作品を展示します。

つくり手：八島 孝一、宮間 英次郎、上里 浩也、高橋 和彦、
西本 政敏、平岡 伸太、水谷 伸郎、平野 信治、
狩俣 明宏、大久保 寿、吉澤 健、畑名 祐孝、
石野 敬祐



石野敬祐《女の子》2009年

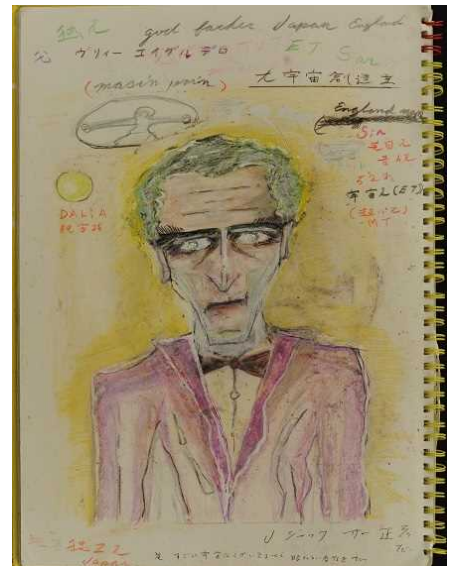
滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫

写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

5 心の最果てへ

激しい感情を表明したり、やすらぎを求めたり、過去の記憶を掘り起こしたり、我を忘れてなにかに没頭したり、ここでご覧いただく作品からは、そういった心の動きを感じ取ることができるでしょう。

つくり手：秦野 良夫、木伏 大助、内山 智昭、木本 博俊、
松田 僚馬、富塚 純光、岩崎 司、小幡 正雄、
山崎 健一、高橋 重美、土屋 正彦、澤田 真一



土屋正彦《(宇宙の父) スペース・ゴッドファーザー》

2004～2009年頃 滋賀県立美術館蔵

撮影：大西暢夫

写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

5. 小さなお子さんがいる、障害があるなど、様々な理由で来館を迷っている方へ

当館では、しんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートをご希望される場合や、そのほかご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

6. 関連イベント

◆公開制作 [事前申込不要/無料]

本展の出展者の富塚純光による公開制作（富塚純光の虚実混成絵物語）を開催します。事実と空想を織り交ぜた物語を絵と文字で紙面に紡いでいく、富塚純光の独特の制作を公開します。

日 程：5月11日（土）

時 間：13：00～14：00

場 所：滋賀県立美術館 ギャラリー

※やむを得ない事情で内容を変更する場合や

中止する場合は、当館ホームページでお知らせします。



富塚純光《青い山脈物語 8 おっかけられたの巻》

2011年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫

写真提供：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

◆たいけんびじゅつかん [要事前申込/抽選/参加費 200 円（保護者の方のみ要観覧料）]

小・中学生とその保護者対象の、展覧会鑑賞&創作体験。

日 程：4月28日（日）、5月26日（日）

時 間：13：00～15：30

定 員：各回 15 名

◆土曜日はギャラリートーク[事前申込不要/当日先着/要観覧料]

当展覧会の担当学芸員が展示室をご案内。

日 程：会期中毎週土曜日

時 間：15：30～16：30

定 員：各回 20 名程度

◆連携企画：アートと障害を考えるネットワークフォーラム 2024[要事前申込/申込先着/無料]

美術や福祉の関係者とともに、「アートと障害」をテーマにした講演やトークセッション。

日 程：6月23日（日）

時 間：13：30～16：30

定 員：70 名

主 催：滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課 美の魅力発信推進室

7. 図録

本展覧会の出展者 45 名全員の解説を掲載するほか、当館ディレクターの保坂健二郎と本展覧会担当学芸員の山田創の書き下ろし論稿を掲載し、アール・ブリュットの魅力を深く知ることのできる内容になっています。展覧会のガイドブックとしてもちょうどよい、コンパクトな A5 サイズです。

8. 同時期に開催する当館の展覧会（常設展）

◆常設展 小倉遊亀コーナー「小倉遊亀とその弟子たち」

会期：2024 年 4 月 20 日（土）～ 6 月 23 日（日）

会場：展示室 1

◆常設展「近江商人のたからもの」

会期：2024 年 4 月 20 日（土）～ 6 月 23 日（日）

会場：展示室 1

◆常設展「モノクローム ーただ一つの色にのせてー」

会期：2024 年 4 月 20 日（土）～ 6 月 23 日（日）

会場：展示室 2

9. 次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名：滋賀県立美術館開館 40 周年記念「滋賀の家展（仮）」

会 期：2024 年 7 月 13 日（土）～ 9 月 23 日（月・祝）

概 要：かつて、多くの住宅建築関連の工場を県内に有していた滋賀県は、近代以降の日本の住宅建築の展開を支えてきました。また、琵琶湖を中心とする自然豊かな土壤に惹かれた人々による別荘地やベッドタウンとしての活用が進む一方で、古くからの集落を残す場所でもありました。本展では滋賀県と日本の住宅建築のつながりを起点に、今まさに滋賀県に生きる人々の暮らしと建築がどのような未来の生活様式や環境を形作るのか見つめていきます。

10. 内覧会

(1) 開催日：2024年4月19日（金）

(2) 会 場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町1740-1）

(3) タイムスケジュール【予定】

10時以降、随時受付をいたしますので、エントランスロビーのプレス受付にお越しく下さい。

①招待者や関係者による内覧会

10：30～10：45 オープニングセレモニー

- ・当館ディレクター保坂健二郎のご挨拶
- ・滋賀県知事または滋賀県副知事のご挨拶
- ・日本財団 吉倉常務理事のご挨拶
- ・出展者のご紹介

10：45～12：30 内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）

※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー終了までは、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

②プレス限定の内覧会

12：30～13：10 担当学芸員による展覧会場のご案内

13：10～13：50 説明会（木のホール）

- ・当館ディレクター保坂健二郎のご挨拶
- ・展覧会内容紹介（担当学芸員）
- ・質疑応答

※15時まで自由にご取材いただけます。

(4) 参加申込み

参加を希望される方は、別添「内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2024年4月18日（木）までに、FAXまたはメールにてお知らせください。お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください。（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います。）

(5) 注意事項

天災地変等の突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

11. 滋賀県立美術館の概要

- ・1984年8月26日に滋賀県立近代美術館として開館しました。
- ・開館以来の作品の収集方針は、「日本美術院を中心とした近代日本画」、「滋賀ゆかりの美術・工芸等」、「戦後のアメリカと日本を中心とした現代美術」です。
- ・日本画家の小倉遊亀（滋賀県大津市出身）や染織家の志村ふくみ（滋賀県近江八幡市出身）のコレクションは国内随一を誇っています。
- ・2016年には、日本国内の公立美術館として初めて、「アール・ブリュット」を収集方針の柱の一つに掲げました。
- ・2017年4月1日から、改修工事等のため長期休館しました（2023年6月26日まで）。
- ・2021年1月1日付けで、現在の館長（ディレクター）の保坂健二郎が就任しました（第13代）。
- ・2021年4月1日付けで、時代や傾向を限定することになる「近代」を館名から外し、館名を滋賀県立美術館に変更しました。
- ・2021年6月27日に再開館し、目指す姿として「リビングルームのような美術館」を掲げるとともに、「芸術文化の多様性を確認できるような作品」を収集方針の柱の一つに加えました。
- ・2023年度末時点の収蔵件数は2,589件です（日本画・郷土 1,291件、現代美術 567件、アール・ブリュット 731件）。



滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）



滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

内覧会参加返信表

申込期限:4/18 (木)

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

Email : museum@pref.shiga.lg.jp, komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

<必要事項>

1) 貴社名 :

2) ご芳名 :

※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

3) 参加人数 :

4) TEL :

5) E-mail :

6) 通信欄 :

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

E-mail : museum@pref.shiga.lg.jp, komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、FAX またはメールにてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

媒体名 :

種別 : テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 その他

発売・放送予定日 :

貴社名 :

ご担当者名 :

E-mail :

TEL :

招待券希望枚数 : 枚 (送付先住所:)

ご希望の画像に☑をつけてください。

<input type="checkbox"/>	① 齋藤裕一《ドラえもん》2003~2006年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	② 舛次崇《パンチとドライバーとノコギリとパンチ》2006年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	③ 佐々木早苗《無題》2007~2008年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	④ 石野敬祐《女の子》2009年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	⑤ 土屋正彦《(宇宙の父) スペース・ゴッドファーザー》2004~2009年頃 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	⑥ 富塚純光《青い山脈物語 8 おっかけられたの巻》2001年 滋賀県立美術館蔵 撮影：大西暢夫 写真提供：ボードレス・アートミュージアムNO-MA
<input type="checkbox"/>	⑦ 滋賀県立美術館外観 (撮影：大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑧ 滋賀県立美術館エントランスロビー (撮影：大竹央祐)

【使用条件】

※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。

※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどをご遠慮ください。

※展覧会基本情報と広報用画像の使用法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いいたします。

(記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます。)

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。